

WS1:ゴジカラ村視察後の宮川メディカルセンターについての意見・感想				
	宮川森林組合 尾上聡	大台町役場産業室 谷昌樹	三重県木材共同組合 久保敦子	三重県木材共同組合 伊藤駿司
木質化の範囲について	腰板、天井、床 程度 天井等使用できない場合、窓及び開口部の枠材に仕様	床、壁、天井すべて木質化は否。 どこか落ち着かない。		見学した施設のように床・壁・天井・建具全てを木質化するのはいくつか。どのレベルまで木質化するかは個人の好みもあるので、後で批判されてもいいように、実例写真などを見比べながら、多くの人の多様な意見を聞きながら決めるのが良いと思う。
樹種・木材の品質について	樹種はスギで、節有りのものを利用して きるようにしたい	町としてはスギ・ヒノキを利用	森のまちな宮川としての木質化・木造化 を表現して欲しい。	床、腰壁等に積極的に木材を使って欲しい。町の利用方針に従って無垢の板材を利用してはどうか。
望ましい使い方		木、本来の良さを出すのがベスト。(板材としての利用が多くなる)。断面の太きな部材や丸太の利用を考慮に入れる。	あかね材もおおいに利用してもらい、美しすぎる館ではなく、木材本来の自然な姿をそのまま利用するのもありかと思う。	一般に内装を木質化するとコストが高くなると思われがちだが、設計状況の工夫と地元で加工できる一般流通材(節有りの並材、目立たない箇所であれば虫食いあとの軽微なあかね材)の仕様、効率的な木材調達でコストを押し下げることは可能である。こうしたことは設計段階で決まってしまうので、発注者の思いを設計者に確実に確立に伝えることがポイントである。
望ましい使い方について 追加意見		望ましい木の使い方は、介護士の方の意見も参考にしないとうまくいかない。 時間がながい、地域性を考慮したデザインにしたい。また、専門学校や中学生の意見も聞いてみては？	家族からはなれ、新たなグループを作り生活する必要性のある方にとつて、生活居住空間として、とても安心感のある居心地の良さを感じた。	木質化のデザインを決めるに当たっては、その前提として①建築基準法に基づく耐火性能を満たすことと、②低コスト化と短期間での木材調達できることが重要であり、デザインにこだわらずに高コストになる。
木質部分の維持管理 日常の手入れについて	内装で手が触れる範囲のところは、ク リアー塗装した方が水拭きなどができ るのでは？	キズができて当たり前と思えるのか、汚れてしまったと感じるかで、維持管理が変わってくる。 ただ、維持管理、日常の手入れは施設の職員が実施することになるので、意見調整はしておくべき。	安さばかりを追うと、結局維持管理・手入れで余計な費用がかかってくるのではな いかと危惧する。	内装を木質化すると維持管理が難しいというのが一般の考えであるが、見学した施設のトイレの床が板張りであったことを考えると、維持管理はどのレベルまでこまめな手入れができるかにかかっているように思われる。つめたい管理が容易なタイル張りにするのか、心地よい管理に手間がかかると板張りにするか、完成後の管理のあり方とも関連付けて決定しなければなら ない。 一般に木材は取り替えたり維持補修したりが用意であるので、例えば床に複 アイが生じたら、その部分を補修すれば良いと思う。
設計方針			ランニングコストも含め検討し、省エネ設計を採り入れていくことが望ましい。 建設時のコスト削減だけを考えるのではなく、長いスパンで見えるべき。	見学した施設同様、エコ建築にすべきである。建築物における冷暖房の負荷の軽減、すなわちCO2の排出量の削減は時代の要請でもある。快適な室内環境を維持するためにも、高気密・高断熱の施設を目指して欲しい。 見学した施設は、外断熱+屋根断熱、ペアガラス+木製サッシなどとなっ ていた。